

---

# Waht's up

Essence

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

W a h t ' s u p

### 【Nコード】

N 1 2 5 2 D

### 【作者名】

E s s e n c e

### 【あらすじ】

不意な事からバンドを始めることになった不良達。初めはふざけながらも音楽の面白さにふれ、成長していく物語。

## プロローグ

・・・ドガッ・・・ドスッ！！

「こんのガキ！今度からは喧嘩する相手をよく見とけ！！」

いきり立った男達は捨て台詞を吐き出し街中へ消えて行った。  
雪がシンシンと降る田舎街。口を切ったらしく血が口角から流れ出る。

「痛てえ」

浅く雪が積もったアスファルトの上で仰向けになりながら服の袖で血を拭う。

（あのヤロー遠慮なしに殴りやがって）

誰でもよかった。このモヤモヤした気持ちを消せるなら誰でも。  
だが、殴っても殴られてもこの気持ちはすっきりしなかった。  
口の中が血の匂いで満たされていく。血を吐き出すと真っ白な雪が  
赤色に染められていく。

「大丈夫…ですか？」

不意に声をかけられる。視線を声の主に向けると女が立っていた。

「そんな所で寝てると風邪を引きますよ？」

長い栗色の髪にまだあどけない顔立ち。

歳は同じぐらいだろうか。

「あんたには関係ないだろ」

「でも…」

よろよろと立ち上がる俺に彼女は優しく手を差し伸べてくれたが、その優しさがヤケに疎ましく思えた。

「やめてくれ!!」

「……じゃあ、そうします」

「……」

去っていく彼女を後ろ背にして止むことのない雪の街を後にした。

「うぜえんだよ……何もかも……」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1252d/>

---

Waht's up

2010年10月22日07時28分発行